公益財団法人新潟市芸術文化振興財団

参考資料３

新潟から世界へ

金森穣（りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館舞踊部門芸術監督、Noism芸術監督）

Noism Company Niigata（ノイズム・カンパニー・ニイガタ）

りゅーとぴあ

りゅーとぴあの開館

1998年10月22日、りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館がオープン。それまで新潟にはなかったアリーナ形式の「コンサートホール」、演劇をはじめ舞踊などさまざまな用途に対応可能な「劇場」、能楽はもちろん邦楽などの演奏も可能な「能楽堂」を持つ公共劇場として開館しました。

りゅーとぴあのミッション
・新潟から全国へ　世界へ発信
・芸術文化を通じて「生きる力」を育む
・新潟の文化を次世代へ継承し、市民の誇りにつなげる

コンサートホール

劇場

能楽堂

日本初の劇場専属舞踊団Noismの誕生

設置目的
■新潟において、質の高い新たな舞踊作品を創造し、全国・世界に向けて発信する。
■地方から大都市に向けての新たな舞台作品の創造・発信のネットワークを形成する。
■活動を通して、新潟における舞踊の普及・育成などを図り、市民文化の振興に貢献する。

2004年、日本で初めて劇場専属の舞踊団Noismが、りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館に誕生しました。芸術監督は、りゅーとぴあ舞踊部門芸術監督でもある金森穣。以来17年間、オーディションで選ばれた舞踊家が、国内のみならず海外からも新潟市に移り住み活動しています。

現在Noismには、プロフェッショナル選抜カンパニーNoism0(ノイズムゼロ)、プロフェッショナルカンパニーNoism1（ノイズムワン）、研修生カンパニーNoism2（ノイズムツー）の3つの集団があり、Noism1はりゅーとぴあで創った作品を国内外で上演し、新潟から世界に向けてグローバルに活動。Noism0は、舞踊に限らず、齢と経験を積み重ねた芸術家だからこそ生み出せる表現を新潟から世界に向けて発信。Noism2はプロをめざす若手舞踊家が所属し、劇場での公演の他に、新潟市内で開催されるイベントや学校への出前公演等、新潟に根ざした活動を続けています。

芸術監督
金森穣

副芸術監督
井関佐和子

Noism1リハーサル監督
山田勇気

Noism2リハーサル監督
浅海侑加

公共劇場専属舞踊団として

SHIKAKU

NINA―物質化する生け贄

Nameless Hands―人形の家

Training Piece

劇的舞踊『ラ・バヤデール―幻の国』

Liebestod―愛の死

photo:
Kishin Shinoyama

国際的に活躍していた演出振付家・舞踊家の金森穣氏に芸術監督就任の相談を行った際に、「劇場専属の舞踊団を立ち上げましょう」と提案を受けたことからすべてが始まりました。

公共劇場が専属の芸術集団を持つことは欧米では当たり前ですが、日本の劇場では専属の芸術集団を抱えているところは今もほとんどありません。
それは、集団を抱えるには莫大な予算がかかると思われていることも原因のひとつでしょう。しかし、Noism設立に際し新潟市とりゅーとぴあの文化予算が新たに増えたわけではありません。それまでは首都圏や海外で創られた作品を新潟に招聘するために使っていた予算を、劇場専属舞踊団の運営に充てることにしたのです。つまり、りゅーとぴあは才能ある舞踊家と専属契約を結び、十分に使える時間と場所を保障しました。りゅーとぴあで質の高い舞台芸術を創り、新潟から創造発信することにお金の使い方を変えたのです。

こうして新潟に移り住み、集中した創作環境を保障された舞踊家の存在が、社会にとってどのような価値があり、その専門家集団を抱えることが地方都市の文化政策としてどのような意義を持つのか、Noismはそれを立証するモデルケースとなるべく、活動を続けています。

新潟から世界へ

劇場は、舞台という非日常の体験を通して現代社会を鏡のように映し出すところです。社会を違う角度から見つめることで、普段見落としている価値に気付き、人間について深く考え、日常では出会えないような感動を味わう。そんな体験を共有できる場であり、それを批評したり他者と議論することで、一人一人が主体的に関わる豊かな社会を育むことが劇場の役割です。そのために、Noismでは、国際的な財産となるような舞踊の専門家を育て、新潟から世界に発信できる舞台芸術文化を創造しています。

独自の身体理論で鍛え上げた舞踊家のプロフェッショナルな身体と、鋭い問題意識に裏打ちされた作品は、その質の高さで国内はもちろん海外でも高い評価を得ています。

Noismというカンパニー名の意味は「No-ism」です。ここには、主義をもたないという意味が含まれています。19世紀、20世紀に確立されたさまざまな主義を、否定ではなくもう一度リスタディすることで、21世紀の私たちにとって有用なものを再構築していきたいという思いが活動の理念になっています。

Noismでは、西洋で生まれ発展した舞踊の技法や身体文化を、東洋の身体文化と融合させて再構築することに取り組んでいます。グローバルな情報を吸収しながら、身体を用いて何が表現できるかということを考えています。そのための方法として金森穣が開発した「Noismメソッド」と「Noismバレエ」というトレーニングを行うと共に、西洋と東洋の伝統文化や精神性など、歴史上蓄積されてきたさまざまな身体知を用いて、現代人としての身体表現を後世に伝えていこうとしています。

作品上演履歴 — Noism1 ほか

SHIKAKU
初演：2004年6月8日
会場：新潟 / 東京

black ice
初演：2004年10月28日
会場：新潟 / 滋賀 / 山口 / 宮崎 / 高知 / 岐阜 / 東京 / 長野

no・mad・ic project – 7 fragments in memory
初演：2005年2月24日
会場：東京 / 大阪 / 新潟

Triple Bill （外部振付家招聘企画第１弾）
初演:2005年7月15日
会場：新潟 / 大阪 / 東京

NINA－物質化する生け贄
初演：2005年11月25日
会場：新潟 / 富山 / 大阪 / 北海道 / 東京 / 宮城 / 静岡 / 埼玉 / サンティアゴ, チリ / ニューヨーク, U.S.A. / シカゴ, U.S.A. / サンパウロ, ブラジル / モスクワ, ロシア /ワシントン D.C., U.S.A. / ミシガン州アナーバー, U.S.A. / ソウル, 韓国 / 神奈川 / 台北, 台湾 / パリ, フランス /大邱,韓国 / 杭州,中国 / 香港,中国 / 上海,中国 /

能楽堂公演
初演：2006年2月16日
会場：新潟

sense-datum
初演：2006年5月6日
会場：新潟 / 大阪 / 石川 / 宮城 / 茨城 / 静岡

TRIPLE VISION （外部振付家招聘企画第2弾）
初演：2006年11月10日
会場：新潟 / 岩手 / 東京 / 滋賀

PLAY 2 PLAY – 干渉する次元
初演：2007年4月20日
会場：新潟 / 静岡 / 東京 / 兵庫 / 神奈川

W-view （外部振付家招聘企画第3弾）
初演：2007年10月5日
会場：新潟 / 東京 / 福岡 / 岩手 / 北海道

Nameless Hands—人形の家
（朝日舞台芸術賞舞踊賞受賞・キリンダンスサポート作品）
初演：2008年6月2日
会場：新潟 / 静岡 / 東京 / 福島 / 石川 / 愛知 / 高知 / 神奈川 / マドリッド, スペイン

ZONE—陽炎 稲妻 水の月
（共同制作：新国立劇場）
初演：2009年6月5日
会場：新潟 / 東京/ ワシントンD.C., U.S.A.

Nameless Poison—黒衣の僧
（共同制作：チェーホフ国際演劇祭）
初演：2009年11月20日
会場：新潟 / 静岡 / 愛知 / 東京 / 長野/ モスクワ, ロシア

劇的舞踊『ホフマン物語』
初演：2010年7月16日
会場：新潟 / 静岡

Noism×NAF蜉蝣の影
初演：2010年12月23日
会場：新潟

OTHERLAND（外部振付家招聘企画第4弾）
初演：2011年5月27日
会場：新潟 / 滋賀

中国の不思議な役人 / 青ひげ公の城
（サイトウ・キネン・フェスティバル松本2011）
初演：2011年8月21日
会場：長野 / 北京, 中国 / 上海, 中国 / フィレンツェ, イタリア

solo for 2（NHKバレエの饗宴2012）
初演：2012年3月30日
会場：東京

Nameless Voice—水の庭、砂の家
初演：2010年7月16日
会場：新潟 / 埼玉 / 静岡 / 愛知 / 石川

solo for 2 / 中国の不思議な役人
会場：新潟 / 神奈川

ZAZA—祈りと欲望の間に
初演：2013年5月24日
会場：新潟 / 神奈川 / 静岡

劇的舞踊『カルメン』
初演：2014年6月6日
会場：新潟 / 神奈川 / 兵庫 / モスクワ,ロシア

ASU—不可視への献身
初演：2014年12月19日
会場：新潟 / 神奈川

supernova（NHKバレエの饗宴2015）
初演：2015年3月28日
会場：東京

箱入り娘
初演：2015年6月6日
会場：新潟 / 神奈川 / 石川 / ソウル, 韓国

劇的舞踊『ラ・バヤデール—幻の国』
初演：2016年6月17日
会場：新潟 / 神奈川 / 兵庫 / 愛知 / 静岡 / ブカレスト, ルーマニア / サンクトペテルブルグ,ロシア /

マッチ売りの話＋passacaglia
初演：2017年1月20日
会場：新潟 / 埼玉 / シビウ, ルーマニア

Liebestod—愛の死 / Painted Desert
初演：2017年5月26日
会場：新潟 / 埼玉

『Mirroring Memories—それは尊き光のごとく』
初演：2018年4月28日
会場：東京

劇的舞踊『ROMEO & JULIETS』
初演：2018年7月6日
会場：新潟 / 富山 / 静岡 / 埼玉

実験舞踊『R.O.O.M.』/『鏡の中の鏡』
初演：2019年1月25日
会場：新潟 / 東京

『Mirroring Memories—それは尊き光のごとく』/『Fratres Ⅰ』
初演：2019年7月19日
会場：新潟 / 東京

森優貴/金森穣Double Bill 『Farben』『シネマトダンス』
初演：2019年12月13日
会場：新潟 / 埼玉

実験舞踊vol.2『春の祭典』/『FratresⅢ』プレビュー公演
初演：2020年8月27日
会場：新潟 / 豊橋

Duplex Noism0/Noism1『残影の庭～Traces Garden』/『Das Zimmer』
初演：2021年1月22日
会場：京都(『残影の庭』2021年1月10日) / 新潟 / 埼玉

研修生カンパニーNoism2

Noism2は、プロをめざす若手の舞踊家が所属する研修生カンパニーとして2009年9月に設立されました。Noism1のプロの舞踊家たちと共に毎朝稽古を重ね、Noism2の同世代の舞踊家たちと共に毎日舞踊芸術と向き合うこと、それは劇場専属舞踊団でなければ得ることのできない貴重な経験です。

Noism2では、毎年春夏の単独公演のほか、Noism1との合同公演や、新潟市内で開催される文化イベントへの出演、中学校への出前公演等、年間を通じて充実した活動を展開しています。設立から11年を経た今、ここでの経験を糧にNoism1に昇格した者、在籍中に海外のカンパニーオーディションに合格し海外でプロとなったものなど多くの舞踊家を育成しています。

『火の鳥』演出振付：金森穣

『Painted Desert』演出振付：山田勇気

photo:
Isamu Murai

Noism2×永島流新潟樽砧伝承会
『赤降る校庭 さらにもう一度 火の花 散れ』
演出振付：山田勇気

中学校出前公演でのアフタートーク

中学校出前公演

Noism2×みなとぴあプロジェクションマッピング
『Painted Ghost』演出振付：山田勇気

アウトリーチ／ワークショップ

りゅーとぴあでは、開館以来「地方都市から地域に根ざした質の高い舞台の創造・発信」を掲げて“新潟発創造発信事業”に取り組んできました。Noismでも、その活動を通して日本の劇場文化の発展をめざし、公演だけではなくさまざまなアウトリーチ活動も続けています。これまでに見出した身体知を広く伝えるために、2020年から「市民のためのオープンクラス」を開講しています。

オープンクラス

「バレエ」「レパートリー」「からだワークショップ」と初心者から経験者まで参加できるクラスを用意。小学生から80代まで幅広い層が参加。

からだワークショップ

誰でも参加可能なワークショップ。日常の何気ない所作や遊びから、自らの身体を再発見するようなプログラム。2019年度から視覚障がい者向けにも開催。

高校生ワンデイスクール

新潟市内の高校ダンス部を対象とした舞踊体験ワークショップ。2020年度はNoismレパートリーから『春の祭典』を体験。

市民との対話

対話による公開講座「柳都会」　2011年秋から年間2～4回程度のペースで、これまでに23回開催。

公演後のアフタートーク　新潟での公演では、設立以来毎回欠かさず行っている。※現在はコロナウイルス感染拡大防止のため休止中

新潟で「劇場文化」を根付かせ発展させていくためには、質の高い作品を創造するだけではなく、多様な視点から語り合う場を作っていくことも重要だと考えています。

その第一歩として、さまざまな領域で活躍する専門家を招き、芸術監督・金森穣と共にそれぞれの視座から見据える現代社会について語り合う公開対談「柳都会（りゅうとかい）」も開催しています。

また、りゅーとぴあでの公演後に毎回欠かさず行うアフタートークでは、初めて公演に足を運んだ人からの素朴な質問や、長く公演を見続けている市民からの突っ込んだ意見など、さまざまな声が聞かれます。演出振付家や舞踊家が観客と直接コミュニケーションをとることで、新潟の観客と共に新たな劇場文化をこの地に生み出しています。